



N036 発達障がいのある子どもへの理解と対応

— 教育センター公開講座から part2 —

前回は引き続き「公開講座」の内容をお伝えします。
今回は、事例をもとに対処の仕方について考えてみます。

【事例1】

小学校1年生の女兒 やすこちゃん

- 入学後2か月経った。
- 学校での基本的リズムは浸透している。
- 思った以上に適応していると母親は安堵した。
- 実はこの女兒は高機能自閉症であった。
- 担任にもある程度伝えていたが…
- 「お母さん、やすこちゃんですが、先日自分の椅子に掛けてあるべき雑巾が床に落ちていたので、『やすこちゃん、雑巾落ちているよ。』と言ったのです。すると『私は落としていません!』って怒り出しました。困りますね…」



本来教師は、やすこちゃんにどう伝えるべきだったのか?
“高機能自閉症” という視点から考えてみると…



<特徴>

- 1) 社会性の障がい
視線が合いにくい、友だちと遊べない、他者の感情や考えを理解するのが難しい等
- 2) コミュニケーションの障がい
言葉の遅れ、独り言が多い、会話のやりとりをうまく進められない、比喩的表現が分からない等
- 3) 想像力の障がいとそれに基づく行動の障がい
興味・関心が偏っている、特定の習慣にこだわる、変化に対して強い不安や抵抗をあらわす等
- 4) 感覚の過敏さ
特定の音や声を嫌がる、味覚や触覚が過敏で偏食が多い、体に触れられることを嫌がる等

《やすこ》

- ・ 他者の感情や考え等を理解することが苦手で、字句どおりに言葉を受け止める。
- ・ 落とし物は落とした人が拾うべきで、自分が落としていない場合は拾う必要がないと考える。

《教師》

- ・ 「やすこちゃんの雑巾が落ちていたので、拾って掛けておいた。」ということを伝える。
- ・ “自分が落としていない場合でも、拾う場合がある” ということを、教えることができる。